

本市における防災の主な取り組み

ハード対策



津波発生時に高台へ迅速に避難できるよう津波避難施設や太陽光照明を整備。

避難行動計画づくり



自らの避難行動を住民が主体的に考えながら地域ごとに避難行動計画を作成。

避難所運営訓練



女性への配慮や、ベットの同行など新たな視点も取り入れた避難所運営訓練を実施。

木造住宅の耐震化



昭和56年5月31日以前に建築された木造家屋の耐震診断や補強計画、補強工事に対する事業費補助。

家具の耐震化



地震から命を守るため、家具の固定作業を無料で実施(高齢者世帯、母子家庭世帯等)。

ソフト対策

ブロック塀の撤去・改善



倒壊や転倒の恐れのある危険なブロック塀の撤去や改善に対する事業費補助。

その他にも、災害情報や気象情報をいち早くメールやツイッターなどで配信しているほか、防災に向けた様々な取り組みも行っています。詳細は、市ホームページをご覧ください。

広報ぬまづ

【市長】 「万近助」の精神を象徴するような素晴らしい光景ですね。

【山村】 日頃の訓練の成果もありましたが、一番の要因は、日頃から地域防災に取り組む人たちが中心となって、コミュニティが一体感を持っていたことだと感じました。この地区では消防団OBが中心となり、防災に取り組んでいたのですが、彼らが地域のお祭りや日頃のコミュニティ活動の下支えとしても活躍しています。常日頃から目配りや気配りをして、リーダーシップを発揮しているおかげで、コミュニティがまとまり、いざという時にも普段と変わらず、落ち着いた行動ができたのです。

【市長】 本市が今年度実施した市民意識調査では、日頃から自治会や近所の人たちと防災情報の交換を行っていると答えた人は1割にも満たず、今後、コミュニティ内の防災意識の強化のためには、こうしたリーダーの育成が必要不可欠だと考えています。

【山村】 防災アドバイザーとして沼津市の各地を巡り、防災訓練の様子や地域の人たちとお話しさせて頂くと、皆さん一生懸命防災活動に取り組まれています。沼津市

【市長】 そうですね。私が掲げる「世界一」に掛けて「世界一災害に強く、誰もが安心して暮らせるまち・沼津」を全国に発信していけたらと思います。本日は、どうもありがとうございました。

【山村】 災害が今日来ると思っている人はほとんどいません。でも来ると思っただけで準備しなくてはなりません。「悲観的に準備し、楽観的に生活する」。ぜひ、こうしたまちづくりを実現し、全国に先駆けて「防災都市・沼津」をPRしていけたらいいですね。

【市長】 そうですね。私が掲げる「世界一」に掛けて「世界一災害に強く、誰もが安心して暮らせるまち・沼津」を全国に発信していけたらと思います。本日は、どうもありがとうございました。



水消火器を使った初期消火訓練(山王公園)

安心できる居場所づくりを進めることが沼津の魅力をもっと高める

津波のリスクが高い沼津だからこそ災害に強く、安心して暮らせるまちに

【山村】 沼津市には約3年携わっていますが、本当に素晴らしい地域だと思えます。景観も優れているし、魚もおいしい。まだ知られていない魅力があると思います。

【市長】 県内随一を誇る60キロメートルに渡る海岸線を有し、海越しに見る富士山は特に絶景ですね。ただ、東日本大震災以降、市民の皆さんは津波による被害を大変心配しています。

【山村】 海に面している地域は必ず津波のリスクがあります。しかし、あまりにも騒がれ過ぎてしまっていて、沼津市の一番いい景色

が風評によって損なわれてしまっているのはもったいないですね。絶対に安全な場所は全国どこを探してもありません。市民も一緒に考えて、安心できる居場所づくりを進めることが沼津市の魅力をもっと高めていくために必要かもしれません。

【市長】 被害が想定されるからこそ、こうしたまちの課題を市民の皆さんと一緒に考えていきたいです。今までに、津波避難タワーや避難路の整備といったハード面の取り組み、地震・津波対策マニュアル、津波ハザードマップの作成などのソフト面の整備を行ってきましたが、地域それぞれの事情に合わせたより具体的な防災対策も必要ですので、地域の人たちにも参画して頂き、共に考え、進めて

【山村】 熊本地震の被災地を訪れた時に、まさに日頃のコミュニティの取り組みが功を奏したという光景を目の当たりにしました。50年以上の経験の中で私は初めて、被災後間もないのに、避難所で生活する被災者の皆さんが笑顔でいるのを見ました。

【市長】 それは、なかなか考えられないですね。避難所で生活する人の多くは、今後の生活への不安や慣れない場所での暮らしによる疲労でいっぱいという印象です。

【山村】 普通はそうですよ。その場所は熊本県西原村の河原地区で、震度7を記録し、建物も多く倒壊しましたが、犠牲者が一人もいなかったんです。地震発生時には、地域の人が皆で協力し、安否確認をして、生き埋めの人がいたら即座に助けました。また、物資が届かないとわかると、炊き出しに必要なものを分担して持ち寄り、食糧の到着までの3日間、自分たちだけで一食も欠かさずに、食事を作り続けることができました。掃除なども、小・中学生が自発的に行い、全員が役割分担して頑張るうという雰囲気があったのだと思います。

【市長】 「万近助」の精神を象徴するような素晴らしい光景ですね。

【山村】 日頃の訓練の成果もありましたが、一番の要因は、日頃から地域防災に取り組む人たちが中心となって、コミュニティが一体感を持っていたことだと感じました。この地区では消防団OBが中心となり、防災に取り組んでいたのですが、彼らが地域のお祭りや日頃のコミュニティ活動の下支えとしても活躍しています。常日頃から目配りや気配りをして、リーダーシップを発揮しているおかげで、コミュニティがまとまり、いざという時にも普段と変わらず、落ち着いた行動ができたのです。

【市長】 本市が今年度実施した市民意識調査では、日頃から自治会や近所の人たちと防災情報の交換を行っていると答えた人は1割にも満たず、今後、コミュニティ内の防災意識の強化のためには、こうしたリーダーの育成が必要不可欠だと考えています。

【山村】 防災アドバイザーとして沼津市の各地を巡り、防災訓練の様子や地域の人たちとお話しさせて頂くと、皆さん一生懸命防災活動に取り組まれています。沼津市



東日本大震災で津波被害に見舞われた陸前高田市の調査を行う山村さん

提供：防災システム研究所 山村武彦氏